

旺盛な好奇心と  
華やかさも忘れずに  
しなやかな視点

# 万華鏡

発行日 平成25年4月25日

泉区福祉ガイドブック作成委員会

代表 天江 真

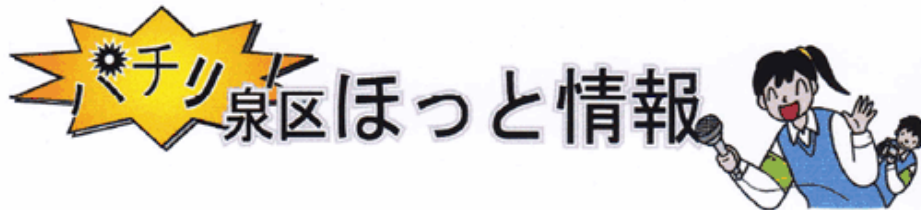
事務局

〒981-3108

仙台市泉区松陵3-8-4

Tel/Fax 022-375-9362

E-mail izumi8guide@hotmail.co.jp



## みんなえがおで働ける施設 発見！！



南光台2丁目に平成24年12月に開所したばかりの「就労継続支援B型事業所 みんなえがお」を訪問してきました。突然の訪問にもかかわらず、親切丁寧に施設の説明 案内をしていただきました。

就労継続支援A型事業所で一緒に勤務していた3名が、利用者が主役の事業所を作りたいと新規に開所をしたそうです。職員は管理者1名・サービス管理責任者1名・職業指導員1名・生活支援者1名(兼務)・総務・経理担当1名(兼務)。その他に東北福祉大学生ボランティア、みんなえがおサポート隊の応援があります。

施設の特徴は、利用者はもちろんのこと、運営に係わる人たちみんなが、身も心もみんなえがおになれるような施設運営を目指す。支援目標は、働くことが楽しい、必要とされることが利用者の自信とやりがいにつながり、その結果、宮城県の平均工賃を上回ることができるよう、支援を行っていく。

工賃は時給100円からで3か月に1回評価の見直しを行い、皆勤賞なども支給していくそうです。また、無償で提供される昼食は、栄養士監修の下、カロリー計算やバランスを考え弁当製造業者に委託したものだそうです。

事務所スペースの奥にある部屋が作業所になっており、明るく広い作業所は十分な広さと設備が揃っていました。見学は大歓迎とのことですので皆さんも一度足を運ばれてはいかがでしょうか。

定員 20名 受入可能人数 20~25名  
 対象者 主に知的障害をお持ちの方  
 ※利用にあたっては、障害福祉サービス受給者証の提示が必要  
 送迎 なし  
 利用料 ご負担願います。

### 特定非営利活動法人 みんなえがお 就労継続支援B型事業所

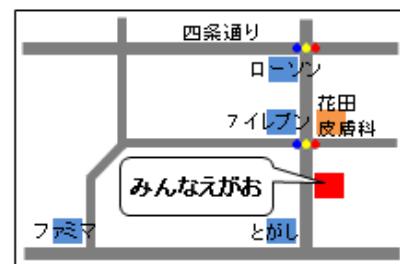
仙台市泉区南光台2-15-18 千成屋ビル1F

連絡先 鈴木 070-5477-9473

佐藤 070-5477-8721

開所時間 9時~16時

休所日 土・日・祭日(年間カレンダーによる)

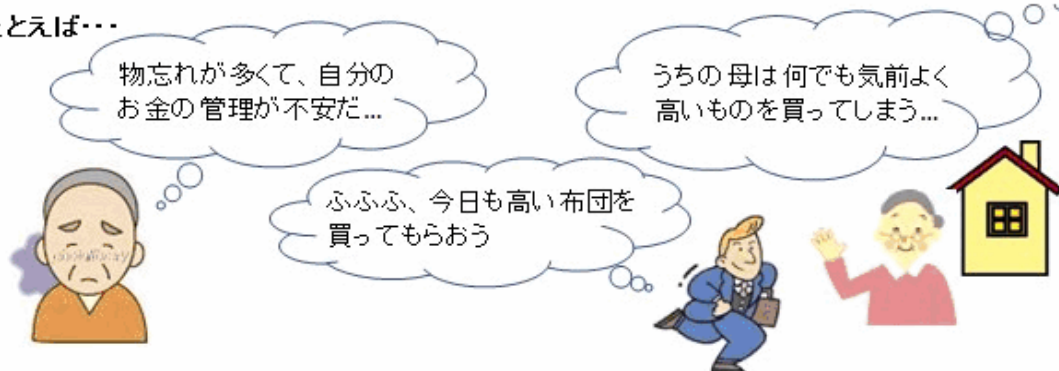


# 泉中央地域包括支援センターだより

地域包括支援センターは、今年度8年目を迎えます。地域に根差した相談支援機関として、高齢者やその家族、地域の関係者の福祉の増進に寄与できるよう頑張っていきたいものです。

今回は、地域包括センターの権利擁護業務の一つでもある「成年後見制度」の活用についてわかりやすくご紹介していきます。

たとえば…



こんな時には！



成年後見人には、家族の他、弁護士、司法書士、社会福祉士が本人の事情によって選任されることがあります。成年後見制度の手続きには費用がかかりますので、最寄りの地域包括支援センターにご相談下さい。

泉中央地域包括支援センター TEL 372-8079 FAX 343-6526



私の住む町内会に、一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるための仕組みづくりが企画され、ボランティアによる「思いやりの会」が発足した。

スタートして間もないが、メンバーには民生委員や福祉委員の方々も含まれている事から、フォーマルサービスに加え、インフォーマルサービスによる高齢者の「生活の質」を高める効果が表れてくるのではないかと期待している。

私も参加させていただいているが、この会を通してボランティアの方々と知り合い挨拶を交わすなど交流の幅がひろがってきたのは何よりのプレゼントになり、さらには住民同士がつながりを認識する好機にもなっているのではと思っている。

時にはうまくいかないかもしれないけど、へこたれないで肩ひじはらず緩やかに歩いていくのが一番。いずれ「互助のマップ」ならぬ「支え合いマップ」などを作り地域のネットワークを再確認し、高齢者のサポートなど福祉に役立っていければいいと勝手な個人の夢は膨らみます…でも、そうなる息の長いきめ細かな取り組みが求められることになる。

しかしプライバシーに配慮し、何気なくさりげなく活動を展開し継続して地域に根付かせていくのは結構難しいんだよね～と、ちょっと弱音をのぞかせたつぶやきが聞こえてくる寒い春の午後でした。

(あらい無料介護相談所 荒井 勝子氏記)



## わたしの絵 あなたの絵

これは4月さくらの季節に、いずみの杜診療所のデイケアサービスでの絵画造形教室(虹たま教室)での一コマです。

<こんにちは～近くの熊野神社の大きな桜が満開ですてきですね～>

ここから「さくら談義」が始まり14人のそれぞれの「さくら」が展開し始めます。虹たまが絵画や造形を創る時、一番大事にしていることは①会話②季節感③手作り感の3つですが、心を感じることを全てを会話(コミュニケーション)を通しさくらを描き愛でる事にあります。

利用者の皆さんの会話は人生そのもので、「何時何処のどのさくらがこうだ」「一番家のさくらがきれいだ」「今年のさくらの色は・・・」「桜餅はうまい」とか、さくらさくらの歌を唄うなど、パステルでぼかし絵に取り掛かるまで時間を要しましたが、お話しや笑顔の交流は途切れることはありませんでした。また、あまり語らない方もさくら色に纏わる思いを形にすると笑顔で返して下さり、嬉しい瞬間です。これらの季節事の題材に纏わる皆さんのお話は、たまたま私には大好きです。

ここでの活動は4年になり職員の理解と協力で始まりましたが、一般的に絵は苦手面倒という方が多く、それを身近に感じさせることは容易なことではありませんでした。苦手面倒の壁とは、上手く(形、色はリアルに)描けないと笑われる、恥ずかしいからということですが、感じたことを描き何となく「これでいいのだ」と意識することで壁は低くなり、いろんな発見があり嬉しくなるものです。各人が持つ五感を引き出すことが肝要で、この壁をどのような形で払拭できるか日々題材と素材選びやその工程は試行錯誤です。

その作業は、私が美術教師と子供の絵画造形教室を30年近く続けてきたものが根底にあり、「もの」を作り出すおもしろさや発見がここかしこにある事がとても楽しい事です。その面白さは人物、町中、野山、海岸、作品展など刺激を受ける「もの」と出会った時の嬉しさと発見であり、格別です。

このような活動は、虹たまの仲間と共に5年続けており、会員からの創意や工夫が出され今日があります。これからも虹たま教室に興味関心があり一緒にやってみたい方、自分ならどういう場を提供したい等意欲のある方を広く求めたいと思います。

近い将来、高齢者と子供達、障がいを抱えた方との作品展を開催したいと考え、学童保育の場でも絵画造形教室を開いており、年齢や障がいを越え共に大きな力になる場を作りたいと思っています。作品展は絵画造形教室を通し、各人を見比べるのではなく一人一人の作品の良いところを見て想像をする場を目指します。

(アトリエ虹色たまご 代表 熊谷ふき子氏記)



# 『泉区福祉ガイドブックコーナー』

## Daily Cafe

番組名：デイリーカフェ【生放送】  
毎週月～木曜13:00～16:00  
金曜14:00～16:30

13時から16時の生放送番組「Daily Cafe」の中で委員会のメンバーが電話で生出演。取材先からのレポートも交え、福祉や市民活動の身近でホットな情報をお届けします。  
ぜひ、お聞きください。

- ・毎週火曜日 13時40分より10分程度
- ・内容 ◎「泉区福祉ガイドブック」からの情報提供  
◎各団体の行事や会員募集に関してのお知らせ  
◎取材先からのレポートによる情報・話題提供

24年10月から25年3月までの放送内容と取材先のレポートをご紹介します。

## 10月

- 10/2・・・「ロンドン パラリンピック」全般の話
- 10/9・・・「ゴールボール」と「ボッチャ」
- 10/16・・・「車いすバスケット」と「車いすラグビー」
- 10/23・・・「ロンドン パラリンピック」で活躍した日本選手
- 10/30・・・「一般社団法人 日本福祉支援協会」からのレポート



### 一般社団法人 日本福祉支援協会

精神障害者の「共同生活介護・共同生活援助事業」と「自立訓練(生活訓練)事業」を実施している事業所です。「共同生活介護・共同生活援助事業」では、比較的自立度の高い方が共同生活をするグループホーム・ケアホームを運営。平成23年2月「すまいるハウス高玉町」の開設を皮切りに、桜ヶ丘、南光台、袋原と増えていき、仙台市内十数カ所に開設するまでになっています。「自立訓練(生活訓練)事業」は、病院とグループホームの中間の支援で、入院は必要ないが自宅やグループホームではまだ無理な方が対象。利用できる期間は原則2年です。平成23年10月に太白区西中田に「すまいるライフ南仙台」を開設しました。

「すまいるハウス高玉町」に2人目が入所したばかりのところに襲ったのが、東日本大震災。その後被災者のみなし仮設住宅として賃貸物件が使われ、物件探しに苦労しているとのこと。精神障害者への薬づけの療法に対する疑問から、精神リハビリテーション、食事療法、薬物治療の再検討など、精神障害者支援を根本から見直すなど、チャレンジが続きます。

TEL 772-6740

# 11月

- 11/6・・・「ねんりんピック」
- 11/13・・・「ねんりんピック宮城・仙台2012」の開会式と交流大会
- 11/20・・・イベントの紹介
- 11/27・・・「国見・千代田のより処 ひなたぼっこ」からのレポート



## 国見・千代田のより処 ひなたぼっこ

運営主体は、「全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）」。子どもも、高齢者も、しょうがいのある人も、「誰もが地域で自分らしく暮らせる地域社会の実現を目指して活動している団体です。CLCの活動理念に基づき、住み慣れた地域で最期まで暮らせるために、地域の人の集いの場や支え手を育成し、地域で支え合える関係とつくりたい」と平成21年12月東北福祉大学正門真ん前に開設されました。元下宿屋という建物の特性を活かして、フロアと個室を使った幅広い事業を展開しています。

1階のフロアでは、地域食堂（月～金12:00～14:00）と居酒屋（毎週金曜日17:00～21:00）が開かれ、いろいろな人と出会うきっかけの場を提供しています。個室を利用して、キッズルームや麻雀ルール、マッサージルームがあり、子どもの一時預かりや「親子サロン」など子育て支援の事業も実施。個室での一時宿泊も可能です。運営主体はCLCですが、地域のいろいろな団体が参加した運営推進委員会によって地域のニーズが出され、今必要とされていることを連携しながら取り組む場所ともなっています。

Tel 343-1340

# 12月

- 12/4・・・「老前整理」とは、「老前整理セミナー」
- 12/11・・・「老前整理」にとりかかる前に
- 12/18・・・障害者就労継続支援B型事業者「ポッケの森」からのレポート
- 12/25・・・「老前整理」実践編



## 障害者就労継続支援B型事業者「ポッケの森」

名取市に近い太白区人來田の閑静な住宅地、バスの終点にあたる人來田公設小売市場跡地に平成18年4月に開所。豊かな森に囲まれていることから「ポッケの森」と命名しました。「ポッケ」はドラエものの「四次元ポケット」からきており、「無限の可能性」の意味が込められています。苦労やリスクがあっても、自分を必要とされる喜びや自分自身で乗り越えられる支援システムを確立することを大切にしています。バスの終点になることもあり、2年くらいで送迎をなしにして、自分で公共交通機関で通う方針に転換。苦情やトラブルを経ながら、経験を重ねることによって来所できるようになりました。

事業として、弁当とお菓子の製造・配達・販売、「森のレストラン」の運営を手がけています。パティシエールと管理栄養士のトップスキルが関わり、食品の種類を広く浅く取り扱い、幅広いニーズに対応。アレルギー対応の給食や私立学校への手作り給食の提供、高齢者や障害者の方への配食サービスと安定した需要を確保する運営が、利用者が自立して生きていける「工賃」の保証につながっています。

Tel 243-7280

# 1月

- 1/8・・・せんだいふれあいランチなびと「ありすと仙台」、泉区のお店
- 1/15・・・青葉区のお店
- 1/22・・・「NALC(ナルク)宮城」からのレポート
- 1/29・・・宮城野区のお店



## NALC(ナルク)宮城

NALCとは、ニッポン・アクティブライフ・クラブのアルハベットの頭文字を取ったもの。大阪で設立され、その後全国に広がり、NALC宮城は40番目の拠点として平成10年に発足しました。ボランティアで活動した時間を貯金して、援助が必要となった時に引き出せるボランティア時間預託制度が特色です。活動は1時間1点。会員とその両親が点数に応じて援助を受けられます。全国組織なので転勤先や離れた土地に住む両親にも使用できます。NALC宮城の活動内容は、「外出や通院の送迎や付き添い」「話し相手」「庭の手入れ」「家事手伝い」「子育て支援」など多岐に渡っています。送迎が一番の中心活動となっていますが、今後は子育て支援に力を入れていきたいとのこと。

東日本大震災後、全国組織の強みを活かし、銚子・埼玉・京都など全国の拠点からの応援を得ながら、仮設住宅での「パラスル喫茶」を実施。平成23年7月若林区荒井仮設住宅のテスト実施を皮切りに、毎月約4回開催。傾聴を主眼として、ハンドマッサージ、将棋、歌、コーヒー淹れなどで息の長い支援を続けています。

Tel 379-9718

# 2月

- 2/5・・・若林区のお店
- 2/12・・・太白区のお店
- 2/19・・・住まいの震災対策
- 2/26・・・「NPO法人 仙台敬老奉仕会」からのレポート



## NPO法人 仙台敬老奉仕会

特別養護老人ホームでのボランティアは、欧米に比べるとまだ盛んでなく、欧米のやり方を学びながら、特養の入所者にボランティア奉仕することを目的に設立されました。欧米では、介護ボランティアとして施設内に入り、職員と共に施設の重要な構成員として入所者のお世話をし、職員の多忙を緩和しています。日本では、芸能での慰問や施設行事の手伝いなど「慰問型」ボランティアが主流ですが、仙台敬老奉仕会の目指すボランティアは、定期的に施設に出向き、一緒に過ごし相手の望むことをする「寄り添い型」ボランティア。心を開くには時間が必要で、定期的に週1回、決めた曜日と時間に施設に行って信頼関係を築きながら奉仕をしています。

寄り添い型のボランティアを育成し、受け入れる施設の職員も共に学ぶ研修会を奇数月に開催。シンポジウム、講演会、日米介護フォーラムなど本格的な学びの場となっています。研修をしっかりとって、ボランティアと施設をマッチングさせながら進めて行けば、ボランティアは生きがいになり、施設は人手不足を補い、入所者はより良いサービスを楽しむことになり、共にメリットがある素晴らしい支援システムです。

Tel 773-9457



# 3月

- 3/5・・・電気・水道・ガスが止まった時のための常備品
- 3/12・・・通信・流通が止まった時のための常備品と非常持ち出し袋の準備
- 3/19・・・「プロが考える防災グッズ」と「災害時に役立つもの」
- 3/26・・・「通い処 湧々庵 向陽台」からのレポート



## 通い処 湧々庵 向陽台

平成24年11月に設立されたばかりの、定員15名の小規模多機能型デサービスです。運営のコンセプトは「個の尊重」。「自らの手で挑戦し、生きがい・楽しみ・役割を発見してもらいたい。」それが願いです。人から与えられるのではなく、したいことは自分で決める「決められる自由」も大切にしています。「与えるサービス」ではなく、自ら選んでやりたいことをやってもらう「利用者主体のサービス」です。

「したいことは自分で決める」ということから、昼食の用意や余暇活動も食べたいもの、したいものに挑戦。「今日のお昼は何を食べようか？」とメニュー決めから始まり、車でドライブがてら買い物。ウォーターオープンで調理に挑戦し、食事の後は血洗いなどの後片付けも自分でやります。余暇活動も自分の時間はしたいことに挑戦。作った作品は展示をして、皆で鑑賞し楽しめます。入浴時使用のタオルの洗濯や掃除も利用者がやり、日常生活の訓練にもなっています。国の基準よりもスタッフを多く配置して、丁寧な個別対応に力を入れていることが、利用者のやりたいことを尊重した運営を可能にしています。

Tel 232-2332

## 報告 第19回「泉区 福祉のつどい

### ～ネットワーク作りをめざして～

日時:平成24年12月8日(土) 17:30～20:00 参加者 35名  
場所:仙台市泉社会福祉センター 大会議室 1・2

第19回の福祉のつどいも、様々な事業所や施設、そしてボランティアのみなさんにご参加いただきました。

今回のブレイクタイムでは「ゆらリズム」さんのトーンチャイム体験合奏が大好評でした。

まだ参加されたことのない方もぜひ新しい出会い作りにお越しください。



## 「第20回 泉区 福祉のつどい」記念セミナー 開催

日時:平成25年5月25日(土) 17:30～20:30  
場所:仙台市泉社会福祉センター 大会議室 1・2  
内容:施設・事業所における防災対策セミナー

具体的な「防災・BCP事業継続計画」の構築を中心に、そのベースにもなる「改善活動」「5S活動」にも触れた「防災対策セミナー」です。

申込先:事務局 谷田部 E-mail [izumi8guide@hotmail.co.jp](mailto:izumi8guide@hotmail.co.jp)  
または FAX 022-375-9362

定員:100名

## 震災記録誌編纂余話



昨年の暮れに、宮城県知的障害者福祉協会編纂の「東日本大震災の記録誌」が上梓された。A4版・123ページ。施設長さんらによる手づくりの記録集だ。本来は、史上最大ともいわれる全国からの支援人材が宮城県に留まっているうちに、彼らの目線に映じた震災の実像や復旧への取り組み感を、被災現地の施設長さん方の稀有な実録と交差させながら、協働の成果としてまとめ上げたいと構想したものであった。

その時点では、震災で受けたダメージからの回復に忙殺されている渦中であり、記録や振り返りなどに関わる余力がないとの理由で、一時、棚上げされていた。しかし、24年4月が協会役員人事の改選期に当たり、当協会災対本部経験者が一人も残らない事態も想定されたことから、その定例総会の重要案件に記録誌編纂事業を織り込むこととした。立ち上げに時間を空費しないよう、編纂の視点、織り込むべき内容の構成、予算措置まできめ細かに議案化し、旧災対役員をそっくり編集委員に充てること、役員退任後も正規の編集委員として関わられるよう、位置づけを明確にした。幸い、新会長には災対本部副会長が就任し、積極的に編集に関わっていただいたお蔭で、当初の目論見とおり、記録誌が完成した。感謝に堪えない。

震災の記録誌上梓に拘り続けた事情は、全国から馳せ参じ、極限の惨状に身を投じ、懸命に復旧に取り組んでいただいた大勢の救援人材と福祉人としての心意気に対する深甚な感謝の念であった。沿岸部の施設が根こそぎ壊滅の報道に、“利用者を路頭に迷わせてはならない。“一つたりとも、施設を潰すな”、の掛け声のもと、全国から福祉マンパワーの群団が、続々と被災地の最前線に集った。

実に、発災から一週間後には、手をつなぐ育成会、共作連などJDF構成団体、難民を助ける会など一群の救援団体が自発の意思で仙台市のホテルで復興フォーラムを立ち上げ、即日、現地入りした。

日本福祉協会関係者も、交通網が寸断され、カーナビに映らない間道を縫って、現地に直行したのである。施設現場は、どこも被災者でごった返し。支援者も寝袋持参でござる寝。水道も電気も、電話も不通。備蓄も底を突き寒さに震えていた。自らの家族の安否も知れない不安を抱えながら、利用者や避難者の支援に疲労困憊、黙々と目の前に展開する想定外の事態に直面していた職員達や施設の状況がようやく、外部に伝わったのは、彼らによってであった。彼らは、施設職員達が心置きなく福祉サービスに専念できるよう、代わって職員宅のガレキ撤去・家具の水洗いに精を出したという。福祉の本質は人道にありといわれるが、生身の人間が、人道に徹して福祉の本分を守り切った気高い心意気には、只々頭を垂れるだけであった。

記録誌には、そのような被災地で人知れず福祉の本分を貫いた群像達のエピソードや教訓を引き出すための座談会形式による検証など、福祉現場ならではの葛藤の果ての決断と行動の詳細ギッシリと凝集されている。

(宮城県知的障害者福祉協会 前会長 中村正利氏記)



## 「津波のあとの時間割～石巻・門脇小・1年の記録～」 上映会に参加して

日時：平成25年3月10日（日）11:00～13:00

会場：のびすく泉中央 4F ホール

主催：ままふあ会

制作：映画「宮城からの報告」製作委員会



「震災後今も頑張る方々を今一度知ってほしいという思いで、この上映会を行うことにしました。前向きに頑張る子供たちの素晴らしい姿を多くの方に見ていただきたい映画です。」(ボランティアスタッフの言葉)。

そんな思いから上映会が開催され、主催者にふさわしい子ども連れのパパ・ママを中心に沢山の方々が参加されました。



ままふあ会代表荒澤けい子さんの挨拶で始まった上映会。震災後の6月から1年間の、教室と地域、こどもとおとなの再生の日々を石巻の四季とともに織り上げた作品です。上映会の後、東京から駆けつけてくれたゲストの土屋アンナさんが、皆さんに少しでも笑顔になってもらいたいと仮面ライダーで子ども達に大人気の「Switch On!」を披露し、会場が大盛り上がりとなって上映会が終了しました。

### ■映画内容

あの日、石巻市立門脇小学校は津波と火災で壊滅的な打撃を受け、4月から高台にある門脇中学校の一面に間借りして新学期を迎えた。そこには、震災と向きあうこどもたちの姿があった。

3年生の授業「よみがえれ石巻」では、町をどんなふうに創りかえるか？新たな災害に備えるにはどうしたらいいか？こどもたちの奔放なアイデアあふれる授業は3学期まで続いた。

地域では、生活とコミュニティの復興をめざして、住民と行政の意見交換会が始まり、いまでも続いている。

### ■ままふあ会

のびすく仙台の現役ママボランティアが、東日本大震災の復興のために自分達でも子育てをしながらできる事を見つけて活動するためにできた会。「誰でも、遠く離れていても、小さな子どもがいても、たくさんのお金が無くて、あなたの気持ちが届きますよ」と伝えたくて、寄付付きの商品や、復興地区の商品、復興のために募集しているもの、地元の取り組みを紹介する冊子「私にもできる復興支援」を制作している。



WEB検索は→「ままふあ会」 お問い合わせは→[mamafuasendai@yahoo.co.jp](mailto:mamafuasendai@yahoo.co.jp)



### ■映画「宮城からの報告」製作委員会

災害の実態と人々がそれに対しどう立ち向かっているのかという経緯を、子ども達・学校・地域の姿を通して約1年間200時間以上の撮影を行い、「予告編特報」「学校証言篇」「津波のあとの時間割」を制作した。

作品DVD購入と自主上映会のお問い合わせは→090-2955-7868(事務局長：佐藤)

大震災を忘れないために、教訓を後世に伝えていくために、復興に向けてつながっていく力となる記録誌をお届けします。



対談：「阪神淡路大震災から東日本大震災へそして未来へ」  
 記録編：「3.11 その時!! その後!! 伝えたい事」  
 支援編：「支え合って つながって 一步一步」

紹介掲載記事

- ・「河北新報」(2012年5月20日)
- ・「社の伝言板ゆるる」(2012年6月号)
- ・「社協だより いずみ」(2012.7.1夏号)
- ・「震災復興支援活動情報 サボセンかわら版」(2012年7月11日発行号)
- ・「障がい者グラフィティ」(2012年9月18日出演/ユーストリーム配信)  
<http://www.ustream.tv/recorded/25498242>
- ・「宮城県復興応援ブログ ココロプレス」(9月25日)  
<http://kokoropress.blogspot.jp/>



販売店の紹介

取り扱っていただけるお店、病院、サロンなどが  
 ありましたら、ご連絡ください。

- 泉 区：八文字屋泉店、八文字屋セルバ店、金港堂泉パークタウン店、文泉堂本店、たかみ書店、泉病院、工房かやの実、ブックセンター湘南黒松店、地域生活支援オレンジねっと、ボックスなにわ仙台泉店
- 青葉区：丸善アエル店、ブックセンター湘南桜ヶ丘店、ゆめの森、カフェ「HAMAYU」、せんだい・みやぎNPOセンター、ゴコー書店小松島店、あさひ書房、仙台市市民活動サポートセンター、街角サロンもうもう亭、全国コミュニティセンター・東日本、こまくさ苑、ヤマト屋書店仙台三越店、金港堂本店
- 宮城野区：はあとセラビ 幸町、ブックセンター湘南幸町店、みやぎNPOプラザ
- 太白区：紀伊國屋書店仙台店、協裕堂ブックセンター

会員募集

取材をしたり、パソコンを打ったり、企画をしたり・・・あなたの得意の分野で活動に参加してみませんか。自分の住んでいる地域の身近な福祉情報を提供していただける特派員も募集しています。また、ガイドブックで取り上げてほしい情報などがございましたらご連絡ください。

- 正会員 月一回の定例会に参加し、直接活動に携わります。  
 年会費 2,400円
- 賛助会員 活動の趣旨に賛同し、主に資金援助を目的とします。
- |    |     |    |        |
|----|-----|----|--------|
| 個人 | 年会費 | 1口 | 500円   |
| 団体 | 年会費 | 1口 | 1,000円 |
| 法人 | 年会費 | 1口 | 3,000円 |

※詳しくは事務局までお問い合わせください。  
 Tel/Fax 022-375-9362

私たちも、賛助会員として支えています

とも子助産院

「お産ができる民宿」のような感じで、家族まるごとのケアを目指しています。家族・上のお子さんの宿泊も可能です。産前、産後も含め、お産に関することをトータルにケアするために、「妊婦ゴスペル隊」など様々な助産院サークルがあります。



住所：仙台市泉区野村字野村95-6  
 TEL: 772-5960 FAX: 772-5961  
 URL: <http://www.tomo-j.jp/>